

小平市の組成分析調査結果について（回答）

平成28年4月9日付で照会のあった標題の件について、下記のとおり回答します。

記

【確認事項と感想】5

実際に処理をしていない品目の予測を行っているわけですが、1回の成分分析結果で予測値を決めている事はデーターの信頼性に乏しいと思う。  
平成24年以降、一回/年の組成分析調査を行い平成25年から平成27年の4回の平均値で予測値を決めればよかった。  
予測値を得るための組成分析調査（不適品の含有率を含め）の積み重ねが必要では。

<回答>

本調査は、小平市が一般廃棄物処理基本計画を策定するに当たり、家庭から排出されるごみの性状を把握し、ごみの減量とリサイクル推進のための基礎資料を得るために実施したものです。組成分析調査は、予算の関係もございますので、計画の改定などの機会を見て実施していく予定です。

【確認事項と感想】6（-1）

小平市の組成分析結果と衛生組合から回答を得た容リプラの潜在量が微妙に異なっている。P119、P121参照。山崎氏回答参照。

	小平市組成分析結果潜在率	衛生組合の潜在率回答値
可燃物に軟質プラ	4.2	4.3
可燃物に硬質プラ	0.9	0.9
不燃物に軟質プラ	6.3	6.3
不燃物に硬質プラ	17.3	19.5

<回答>

まず、ご指摘の不燃物に硬質プラの衛生組合の潜在率回答値については、19.2であると思います。

そのうえで精査したところ、数値の誤りがありましたので、訂正いたします。

小平市一般廃棄物処理基本計画のP119及び同P121の表の中の抜粋した項目については、

軟質プラスチック：可燃物中の軟質プラスチック+同レジ袋（未使用）

硬質プラスチック；不燃性資源中の硬質プラスチック+同その他発泡トレイ+同キャップ類+不燃物中のチューブ・発泡スチロール等

従いまして、

	衛生組合の潜在率回答値	衛生組合の潜在率回答値（訂正值）	差
可燃物に軟質プラ	4.3	4.3	—
可燃物に硬質プラ	0.9	0.9	—
不燃物に軟質プラ	6.3	6.6	0.3
不燃物に硬質プラ	19.2	19.6	0.4

不燃物について、軟質プラに可燃物中のレジ袋（未使用）0.3%の足し漏れ。

硬質プラにキャップ類0.4%の足し漏れがありました。

なお、訂正に伴い容リプラの計画処理量は、平成35年度において3,776t/年から18t/年増加することとなります。

#### 【確認事項と感想】6（-2）

1月31日の協議会で、岡村部長が以下の発言をしている。

①組成分析は全てのごみ集積場でやるわけでは無い。時期、場所をピックアップしてやっている。

②全体の量がこれで掛けてイコールとは見ていない。

→軟質プラの予測値に使う組成分析結果の信頼性はどうか？との意見あり。

※岡村部長の考え方は、現在も変わらないのかを確認させてください。

<回答>

変わりありません。

#### 【確認事項と感想】7（-1）

連絡協議会での資料や説明では、軟質プラは燃やしているとのことでしたが、この資料を見ると現状と異なる資料提示や説明をしていたこととなります。

片山氏は「硬質プラは燃やしていないとは言っていない」と発言したと記憶していますが、平成24年に組成分析調査を行って状況把握ができていましたので、硬質プラも燃やしているとの資料や説明が必要だったと思います。

<回答>

小平市では、硬質プラは資源として分別するように市民にお願いしていますが、軟質、硬質の判断が難しいことや分別の不徹底により、硬質プラが可燃ごみや不燃ごみに混入しており、結果として焼却されている状況があります。

なお、硬質プラ同様に、他の資源物についても不燃ごみや可燃ごみへの混入が避けられない状況となっています。

「軟質プラは燃やしている」との発言の意図は、小平市の分別区分である「軟質プラは可燃ごみ」「硬質プラは資源物」についての説明をしたものです。

【確認事項と感想】 7 ( - 2 )

今回の組成分析調査結果を見ると、かなり細かな分析が行われていて小平市のごみの現状把握や減量施策に活用していくと考えれば素晴らしい資料だと思います。

衛生組合でも組成分析結果から燃やしているプラの量を予測していると言っている。

只、実際に資源化していない容リプラの予測値を求めるには精度的に疑問を感じた。理由として、①不適格品の含有率調査が行われていないこと。

②紙からプラへの移行が進んでいるとの説明があった中で、組成分析調査が4年前の一回だけで終わっていること。

③組成分析調査は本来、焼却炉更新時の熱量を予測するための資料なのかと思う。

<回答>

①不適格品とは、汚れの落ちない容リプラであり、不燃ごみ、可燃ごみに含まれている容リプラについては、最初から汚れていたものか、排出時に汚れたものか判断ができません。

②平成24年に行った組成分析調査は、計画の策定時に実施したものですので、同様な調査を毎年実施してはおりませんが、今回は、計画の改定時に行う予定です。

③組合の行っている組成分析調査は、ごみ処理施設の維持管理や将来の施設更新の資料とすることを目的に行っているものです。発熱量についても資料として活用しています。

【確認事項と感想】 8

小平市の容リプラ資源化施設の処理能力は年間何トン程度が限界なのか？

衛生組合は小平市の焼却している硬質プラの50%が資源化されると見込んでいるので、成分分析結果の1135tを小平市のリサイクルセンターで資源化する事は可能なのでしょうか。

<回答>

小平市の平成26年度容リプラの実績は、555t/年ですが、現在の施設は、日量3.7t/5時間で、ペットボトルと容リプラ(硬質)を同じラインで処理しています。そのことから、この量はすでに限界を超えている状況にあり、現状の施設で1,135t/年の資源化を行うことは困難です。

【確認事項と感想】 9

組成分析結果とは異なりますが、分別排出の向上(ごみから資源へ)でどの程度のプラ資源量が増えるのか教えてください。

北河内リサイクルセンター視察報告でお知らせしましたが、施設稼働から不適合品の含有率は低下し、結果として搬入量も減少している事例がある。

<回答>

平成26年度実績で予測しますと、約1,500t/年です。